



2026年10月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年6月12日

上場会社名 クミアイ化学工業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4996 URL <https://www.kumiai-chem.co.jp>  
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 横山 優  
 問合せ先責任者（役職名） 総務部長（氏名） 山田幸司（TEL）03-3822-5036  
 半期報告書提出予定日 2026年6月12日 配当支払開始予定日 2026年7月9日  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満四捨五入）

1. 2026年10月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年11月1日～2026年4月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前期中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年10月期中間期	102,919	7.0	10,464	10.8	13,763	66.0	8,748	39.4
2025年10月期中間期	96,177	9.2	9,442	6.9	8,291	△36.2	6,274	△32.7

（注）包括利益 2026年10月期中間期 11,059百万円（83.2%） 2025年10月期中間期 6,036百万円（△57.1%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年10月期中間期	72.63	—
2025年10月期中間期	52.11	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年10月期中間期	259,068	160,492	59.5
2025年10月期	248,205	151,107	58.2

（参考）自己資本 2026年10月期中間期 154,138百万円 2025年10月期 144,485百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年10月期	—	10.00	—	14.00	24.00
2026年10月期	—	10.00			
2026年10月期（予想）			—	14.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年10月期の連結業績予想（2025年11月1日～2026年10月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	162,000	△5.0	7,200	△31.9	10,900	△18.4	6,400	46.1	53.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年10月期中間期	133,184,612株	2025年10月期	133,184,612株
② 期末自己株式数	2026年10月期中間期	12,712,743株	2025年10月期	12,761,542株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年10月期中間期	120,439,017株	2025年10月期中間期	120,390,433株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について）

決算補足説明資料につきましては、2026年6月12日（金）に、当社コーポレートサイトに掲載する予定です。また、当社は、2026年6月26日（金）に、機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を実施する予定です。この説明会で使用する決算説明資料につきましては、開催後当社コーポレートサイトに掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	9

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、個人消費や企業の設備投資の増加や輸出の高い伸びにより緩やかな回復が続きました。

一方で、中東情勢不安定化に伴う原油・ナフサの供給不足や価格高騰の可能性等により、先行きは依然として不透明な状況が続くことが予想されます。

このような情勢の下、当社グループにおきましては、2024年10月期を初年度とする中期経営計画「Create the Future ～できる。をひろげる～」を策定し、企業価値の向上に向けた重点施策の遂行に全力で取り組んでおります。

当中間連結会計期間の売上高は、その他事業が前年を下回ったものの、農薬及び農業関連事業、化成品事業が前年を上回ったことから、102,919百万円、前年同期比6,742百万円(7.0%)の増加となりました。営業利益は、10,464百万円、前年同期比1,021百万円(10.8%)の増加となりました。経常利益は、持分法による投資利益の増加に加え、多額の為替差損を計上した前年から一転して為替差益を計上したことにより13,763百万円、前年同期比5,472百万円(66.0%)の増加となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は、化成品事業における固定資産の減損損失および構造改革費用等の計上があったものの、経常利益の大幅増益により、8,748百万円、前年同期比2,474百万円(39.4%)の増加となりました。また、海外向け売上高の割合は53.9%となりました。

セグメントの概況につきましては以下のとおりです。

セグメント	2025年10月期 中間期			2026年10月期 中間期			前年同期比	
	売上高	売上高 構成比	営業利益	売上高	売上高 構成比	営業利益	売上高 (増減率 %)	営業利益 (増減率 %)
農薬及び 農業関連事業	百万円 78,432	% 81.6	百万円 9,104	百万円 83,646	% 81.3	百万円 9,893	百万円 5,214 (6.6)	百万円 789 (8.7)
化成品事業	12,501	13.0	822	14,525	14.1	1,136	2,024 (16.2)	314 (38.2)
その他	5,244	5.5	535	4,748	4.6	581	△496 (△9.5)	46 (8.7)
計	96,177	100.0	9,442	102,919	100.0	10,464	6,742 (7.0)	1,021 (10.8)

(注) 1. 前中間連結会計期間のセグメントの営業利益には、調整額として主に各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない一般管理費)1,019百万円が含まれております。

2. 当中間連結会計期間のセグメントの営業利益には、調整額として主に各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない一般管理費)1,147百万円が含まれております。

### ① 農薬及び農業関連事業

国内向けは、除草剤「エフィーダ」を含む水稲用除草剤、殺菌剤「ディザルタ」を含む水稲用箱処理剤の販売が好調に推移したことなどから、前年同期を上回りました。

海外向けは、除草剤「アクシーブ」のオーストラリア向けの出荷が減少した一方、米国向けの出荷がジェネリック参入を見据えた販促支援の強化による前倒しにより前年同期と比べ増加しました。

以上の結果、農薬及び農業関連事業の売上高は83,646百万円、前年同期比5,214百万円(6.6%)の増加となりました。営業利益は9,893百万円、前年同期比789百万円(8.7%)の増加となりました。

### ② 化成品事業

生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移したことから、ビスマレイミド類の出荷が顕著に増加しました。また、一部のクロロキシレン系化学品も前倒し出荷により増収となりました。

以上の結果、化成品事業の売上高は14,525百万円、前年同期比2,024百万円(16.2%)の増加となりました。営業利益は1,136百万円、前年同期比314百万円(38.2%)の増加となりました。

### ③ その他

その他全体の売上高は4,748百万円、前年同期比496百万円(9.5%)の減少となりました。建設業において、前年同期に複数の大型工事が完成したことなどから減少となりましたが、収益改善に努めた結果、営業利益は581百万円、前年同期比46百万円(8.7%)の増加となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間の総資産は259,068百万円で、前連結会計年度末に比べ10,864百万円の増加となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産の増加が商品及び製品の減少を上回ったこと等によるものです。

負債は98,576百万円で、前連結会計年度末に比べ1,479百万円の増加となりました。これは主に短期借入金、繰延税金負債、ならびに支払手形及び買掛金の増加が未払金および長期借入金の減少を上回ったこと等によるものです。

純資産は160,492百万円で、前連結会計年度末に比べ9,385百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金が増加したことによるものです。

自己資本比率は59.5%、1株当たり純資産は1,279円45銭となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきましては、中東情勢の緊迫化および紛争の長期化により、当社事業への影響が想定されるものの、その影響の程度については精査中であることから、2025年12月12日に公表しました業績予想を据え置いております。

今後の業績動向を踏まえ、業績予想を見直す必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

### (1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当中間連結会計期間 (2026年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	21,982	27,774
受取手形、売掛金及び契約資産	38,965	58,527
商品及び製品	59,769	49,154
仕掛品	18,803	16,799
原材料及び貯蔵品	10,294	9,602
その他	4,374	2,006
貸倒引当金	△11	△12
流動資産合計	154,176	163,849
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	23,358	23,391
機械装置及び運搬具(純額)	10,498	9,689
土地	12,342	12,049
建設仮勘定	1,804	982
その他(純額)	1,901	1,843
有形固定資産合計	49,903	47,954
無形固定資産		
のれん	1,432	1,301
その他	1,070	1,119
無形固定資産合計	2,502	2,419
投資その他の資産		
投資有価証券	38,640	41,743
長期貸付金	588	587
繰延税金資産	1,083	1,079
退職給付に係る資産	12	3
その他	1,702	1,836
貸倒引当金	△402	△401
投資その他の資産合計	41,623	44,846
固定資産合計	94,028	95,219
資産合計	248,205	259,068

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当中間連結会計期間 (2026年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,039	24,548
短期借入金	36,782	43,739
未払金	8,651	2,535
未払法人税等	2,012	2,602
賞与引当金	1,865	1,466
その他	1,669	3,365
流動負債合計	74,017	78,255
固定負債		
長期借入金	14,324	9,807
繰延税金負債	3,940	5,683
役員退職慰労引当金	464	408
退職給付に係る負債	3,469	3,453
資産除去債務	44	129
その他	840	841
固定負債合計	23,081	20,321
負債合計	97,098	98,576
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,534	4,534
資本剰余金	37,502	37,499
利益剰余金	110,394	117,456
自己株式	△9,184	△9,145
株主資本合計	143,247	150,345
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,243	3,097
為替換算調整勘定	△1,651	56
退職給付に係る調整累計額	645	640
その他の包括利益累計額合計	1,238	3,794
非支配株主持分	6,622	6,354
純資産合計	151,107	160,492
負債純資産合計	248,205	259,068

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)
売上高	96,177	102,919
売上原価	75,379	80,614
売上総利益	20,798	22,305
販売費及び一般管理費	11,356	11,841
営業利益	9,442	10,464
営業外収益		
受取利息	67	45
受取配当金	96	164
貸倒引当金戻入額	208	3
持分法による投資利益	1,342	2,318
為替差益	—	1,027
その他	151	106
営業外収益合計	1,863	3,662
営業外費用		
支払利息	328	337
貸倒引当金繰入額	29	1
為替差損	2,621	—
その他	37	25
営業外費用合計	3,014	363
経常利益	8,291	13,763
特別利益		
固定資産処分益	6	8
投資有価証券売却益	36	1
補助金収入	1	244
受取保険金	221	0
特別利益合計	263	252
特別損失		
固定資産処分損	43	37
固定資産圧縮損	—	244
減損損失	—	514
構造改革費用	—	907
環境対策費	88	—
特別損失合計	131	1,702
税金等調整前中間純利益	8,423	12,314
法人税等	2,020	3,891
中間純利益	6,403	8,423
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	129	△325
親会社株主に帰属する中間純利益	6,274	8,748

中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)
中間純利益	6,403	8,423
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△151	892
為替換算調整勘定	△395	618
退職給付に係る調整額	△3	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	181	1,131
その他の包括利益合計	△367	2,636
中間包括利益	6,036	11,059
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	6,021	11,304
非支配株主に係る中間包括利益	14	△245

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用)

税金費用について、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前中間連結会計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	農業及び 農業関連 (百万円)	化成品 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	78,432	12,501	90,933	5,244	96,177	—	96,177
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	25	26	2,124	2,150	△2,150	—
計	78,434	12,526	90,959	7,367	98,327	△2,150	96,177
セグメント利益	9,104	822	9,926	535	10,461	△1,019	9,442

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、賃貸事業、発電及び売電事業、建設業、印刷事業、物流事業、人材派遣事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△1,019百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	農業及び 農業関連 (百万円)	化成品 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	83,646	14,525	98,171	4,748	102,919	—	102,919
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	29	31	2,054	2,085	△2,085	—
計	83,648	14,554	98,202	6,802	105,004	△2,085	102,919
セグメント利益	9,893	1,136	11,029	581	11,610	△1,147	10,464

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、賃貸事業、発電及び売電事業、建設業、印刷事業、物流事業、人材派遣事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△1,147百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

化成品事業において、当社の連結子会社であるイハラニッケイ化学工業が営む塩素化事業における事業環境の変化により当初予定していた収益を見込めなくなったことから、減損損失514百万円を計上するとともに、厳しい事業環境のもと一連の構造改革を進めていることに伴う減損損失907百万円を構造改革費用として特別損失に計上しております。